



栄光の架橋

♪誰にも見せない涙があった…、卒業生記念合唱の歌が流れ始めた瞬間、胸が熱くなりました。男声と女声のバランスのとれた迫力のある美しい声が心の中に響いてきました。♪いくつもの日々を超えて辿り着いた今がある だからもう迷わずに進めばいい 栄光の架け橋へと。輝かしい未来が来ることを祈っています。

また、1・2年生も立派でした。前日の準備に始まり、卒業式当日の厳粛な雰囲気、心がこもった『旅立ちの日に』の合唱、そして後片付けと、しっかりと卒業生を支えてくれました。すばらしい卒業式でした。

■ 生徒会スローガン「ONE CHANCE~きりひらけ未来への道~」。これからの人生では、どんな苦しい出来事と遭遇するか分かりません。そんなとき、自分を悲劇の主人公だと思い込まず、被災し家族や友人を失っても、未来を信じ、頑張っている人たちに負けないよう、果敢に挑戦し、自分の道を切り開いていってほしいと願っています。また、去年の世相を表した漢字にも選ばれた「絆」を大切にしてください。これまで生きてきた15年間を振り返っても、数え切れない方々の支えによって、今があることに気づくでしょう。ましてやご家族の支えには、甘えてばかりであったことでしょう。卒業という節目に、今までの自分を見つめ直せば、「家族の絆」「友達との絆」の大切さを感じることができるでしょう。私たちは、人と人とのつながりの中で支えてもらいながら生きています。(校長式辞から)

■ 「自分は、基本の練習が嫌いだった。単調だし、どうしてこんなことを長い時間やらなければならないのかと思っていた。ところが、あるとき、自分が自由になるために基本をやるんだということがわかった。それから自分が変わった」(三浦知良)。この話の中の「自分が自由になるために」とは、「自分の思い通りのプレーができるために」ということだと思えます。皆さんに置き換えれば、「自分の夢や目標を叶えるために」と言えるでしょう。皆さんの人生は、まだまだこれからです。高校へ行っても社会へ出ても、基本を学び続けなければなりません。それは、必ず皆さん自身の夢の実現につながるものだと思います。(教育委員会挨拶から)

■ 明日からはまた一人一人、新しい自分の道を歩み始めます。進学する人、社会に自分の活躍の場を求め人、道は違っていてもそれぞれの夢の実現に向かう道です。道は、まだ開かれてはいません。皆さんが歩いた後が道になります。これから歩む道のりは決して平坦ではありませんし、楽しいことと同じだけ、つらいことがあるかもしれません。しかし、夢は努力と継続の向こう側にあります。たとえ、困難があっても、皆さんには何にも勝る若さがあります。失敗することは成功するための大切な経験です。失敗を恐れず、困難にくじけず、自分の道があるんでいってほしいと願います。(来賓祝辞から)

■ 春からそれぞれの進路に向かって歩き出す皆さんに、百歳の医師、日野原重明先生の言葉を借りて伝えます。長い人生においては、自分の思い通りにいかないこともたくさん出てきます。でも、そんなときにも、忘れないでいてほしいことがあります。うれしいときだけが「君」ではありませんよ。笑っているときだけが「君」ではありません。悲しいときの君も、恥ずかしくて消えてなくなりたいと思うときの君も「君」なのです。だから、つらいときや悲しいときの自分も大切にしなければなりません。成功した喜びでいっぱいになっているときの君も、失敗して涙を流す君も「君」です。どんなときの自分も大事にすること、自分のことをいつも大好きだと思っていること、これはとても大切なことです。(来賓祝辞から)

